研究員紀要　第９号（通号第 19 号）：13～26（2011 年３月）

# 小学校段階において身につけるべき国語学力
## － 高校入試問題と小学校段階でのテスト比較を通して －

田中拓郎　十和田市立大不動小学校

**要　　旨**

小学校段階において子どもたちに身につけさせるべき国語学力とは何であるのか，説明的文章問題に的を絞り，青森県高等学校入試問題と小学校段階での各種テスト問題を比較した。

その結果，青森県高等学校入試問題と小学校ＣＲＴテスト，青森県学習状況調査（小学校）からは，①各段落の内容把握，②論理展開・文章構成，③要約・要旨の把握，④文脈における語句の意味理解の四つが特に身につけさせるべき基本的な学力であることがわかった。

一方，全国学力・学習状況調査（小学校），三本木高校附属中学校入試問題からは「自分の考えをまとめて書く」といった，PISA 型読解力に通ずる思考力・判断力・表現力を伴う新しい学力が求められている。また，青森県高等学校入学試験問題には，説明的文章問題ではないものの二段落構成・決められた字数範囲内で「自分の意見を書く」といった先の PISA 型読解力に通ずる作文問題も出題されている。つまり，高校入試問題も小学校段階でのテストにおいても「自分の考えをまとめて書く」といった PISA 型読解力に通ずる新しい学力も求められるようになってきている。

これらのことから，①各段落の内容把握，②論理展開・文章構成，③要約・要旨の把握④文脈における語句の意味理解のように文章を読んで内容を正確に理解し，別の言葉に置き換えたり，文章全体の構成を把握したり，文章全体をまとめたりといった，これまで説明的文章問題に求められてきた学力（これまでの学力）と，「自分の考えをまとめて書く」といった PISA 型読解力に関わる新しい学力（これからの学力）が混在しながらも子どもたちに求められていることがわかる。つまり，これまで求められてきた基礎的基本的な学力とそれをもとにしたこれからの学力である PISA 型読解力のような発展的な学力の双方が必要とされてきているのである。いわばこの二つの学力を包含した「確かな学力」が求められているともいえる。その際大切なことは，この「確かな学力」を育成するために，子どもにとって PISA 型読解力に通ずる必然性のある学習場面をいかに盛り込むかである。言い換えれば，いかに双方の調和を図りながら日々の学習指導の構造そのもののを変えていくかにかかっているといえる。

【キーワード】　国語学力　説明的文章問題　確かな学力　調和

## １．はじめに（問題の所在）

高等学校全入時代ともいえる今日において，中学生の最終的な「出口」といえば「高等学校入学者選抜学力検査」（以下「高校入試」と略す）であろう。しかし，高校入試問題は「選抜テスト」の性格をもつため，生徒間での「差」がでるように作成される。つまり，高得点の生徒もいれば逆の生徒もでてくる。そこで中学校では，この入試対策のために長期休業中に一部の生徒を対象に補習をするなど基礎学力の底上げを図り，生徒一人一人の志望校合格に向けて指導・支援をしているところもある。

一方，小学校は一部の附属中学入試を除き，大抵の児童の「出口」といえば業者が作成した標準学力検査による学力調査である。この学力調査は，その学年でどれくらい学習内容が定着したかを図るもので，年度末の１～２月に実施される。いわば一年間の総まとめテストともいえる性格をもっている。通過率は７～８割程度に設定されているので，高校入試ほど得点の大きな差はつかない。また，この標準学力検査の他に小学校では日々のテストとして業者が作成した単元別テストを実施しているが，このテストも到達度を測る性格をもつため，通過率を８割前後に設定している。そのため，一人一人の学力の大きな開きや差を中学校ほど実感することは難しい。

ここに「テスト」を通した「小中の評価のギャップ」がある。小学校段階では，標準学力検査や業者作成の単元テストを実施するが，いわゆる平均点を高く設定しているため平均点付近の点数及び高得点をとる子どもが多く，テストの結果を見ても「まあまあできた」という感じを持つことが多い。一方，中学校では高校入試に代表されるように「合格した」

「合格しなかった」「できた」「できなかった」といった身に迫るものがある。また，定期テストなどでは学年を通した順位などが示され，小学校では経験しなかったテストでの戸惑いや困惑を強く感じる場合も生じてくる。

この子どもたちの戸惑いや困惑を私たち小学校教師はどれほど理解し，また生じさせないように小学校段階で押さえるべき学力を身につけさせて中学校へ送り出しているのであろうか。

そして，もう一つ大きな問題は特に小学校教師に多いと思われるが，小中９年間を見通して児童生徒に学力をつけるという考えが希薄なことである。小学校は小学校という枠の中で閉じている。端的には，小学校教師が高校入試問題の傾向を知らないという現実がある。新聞などで多少は興味・関心をもつものの，何が問われているか，小学校との関わりはどうかという視点でみていない。大変恥ずかしいが稿者もその中の一人である。

そこで本稿は，高校入試問題の説明的文章問題を分析し，問われている学習内容・学習事項が小学校での標準学力調査をはじめとした各種テストとどう関わっているのかを考察していく。そのことで小学校段階では，どんな国語学力を身につけさせておけば中学校の国語科学習にスムーズに対応できるか，そして高校入試に耐えうる程度の基礎的基本的学力とは何であるのかが明確になると考えるからである。

## ２．研究目的

小学校国語科授業で身につけさせるべき国語学力とは具体的に何であるのか，高校入試問題と小学校段階での各種テストの説明的文章問題を比較し，押さえるべき学習内容・学習事項を明らかにしていく。

## ３．研究方法

### ３－１　調査・分析対象，調査期間

高校入試問題に関しては青森県高等学校入学者選抜学力検査を取り上げる。また教科は国語科とし，学習指導要領の領域「読むこと」，特に説明的文章に絞って考察していく。また，調査期間は過去５年間とする。

小学校段階の各種テストは標準学力検査として「ＣＲＴテスト」，「青森県学習状況調査」，「全国学力・学習状況調査」，「三本木高等学校附属中学校入試問題」の四種類とする。教科は国語科とし，領域は同様に説明的文章を取り上げる。調査期間は過去５年間とするが，ＣＲＴテストは例年ほぼ同じ問題であるので，昨年度実施の説明的文章を調査対象とする。

### ３－２　分析の観点

分析の観点として次の二点をもとにしていく。一つは現行の中学校及び小学校学習指導要領の内容である。もう一つは先行研究の分析の観点である。具体的な先行研究として『高校入試問題の分析　国語』(1) の分析の観点を参考にしながら整理分析していく。

**（１）小学校現行学習指導要領及び中学校現行学習指導要領から**

まず分析の観点の基本となるのが現行の学習指導要領の内容である。入試問題は学習指導要領を踏まえて作成されていることは明らかである。

本稿の対象となる説明的文章は「読むこと」の領域にあたり，小学校及び中学校の学習指導要領の中の説明的文章指導に関わる内容 (2) のキーワードを整理すると下記の通りになる。

表１　学習指導要領にみる説明的文章指導の各学年別キーワード

| | | 低学年 | 中学年 | 高学年 | 中１・２年 | 中３年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 内 | ア | | | | ・語句の意味を正確にとらえ | ・語句の効果的な使い方について理解 |
| | イ | ・順序<br>・内容の大体 | ・中心となる語や文<br>・段落相互の関係<br>・正しく読む | ・文章の内容を的確に押さえ<br>・要旨 | ・文章の展開に即して内容をとらえ<br>・要約 | ・書き手の論理の展開の仕方 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 容 | ウ | | | | ・事実と意見<br>・文章の構成や展開を正確にとらえ | ・表現の仕方や文章の特徴 |
| | エ | | ・自分の考えをまとめ | ・事象と感想，意見の関係 | ・要旨 | ・自分の意見をもつ |
| | オ | | ・内容を大きくまとめ | | ・自分のものの見方考え方を広くする | |
| 言語事項 | | ・主語と述語 | ・修飾と被修飾<br>・指示語・接続語<br>・段落の役割 | ・いろいろな構成 | ・文脈上の意味<br>・指示語や接続語 | ・語感を磨き語彙を豊かにする<br>・成文や順序，照応，文の組み立て |

上記表１より，小中学習指導要領は「内容」と「言語事項」といった二つに大別して示していること，さらに内容に関してアからオまでそれぞれ発達に応じた内容が示されている。その中で特に，アは「語句の理解」，イは「内容理解のための要旨、要約」，ウは「論理展開・文章構成・事実や意見，表現の仕方」，エとオは「自分の考えを持つ」がそれぞれのキーワードとして捉えることができる。言語事項に関しても各学年の発達に即した内容が示されている。

**（２）先行研究における説明的文章の出題傾向（分析の観点）から**

青森県高校入試問題を分析するための先行研究として『高校入試問題の分析　国語』がある。この先行研究は昭和５５年度の全国高校入試問題を各教科ごとに分類整理したものである。それによると，説明的文章の出題傾向（分析の観点）は下記の通りである。

表２　説明的文章の出題傾向

| 理解項目の出題傾向 | 設問数 | 割合（%） |
|---|---|---|
| ①内容把握・要約 | ７２ | ３９．１ |
| ②文章の組み立て・筋道 | ４５ | ２４．５ |
| ③文脈の中の語句の意味用法 | ２７ | １４．７ |
| ④主題要旨の把握 | ２５ | １３．７ |
| ⑤筆者の思想の理解 | ８ | ４．３ |
| ⑥描写の味読 | ３ | １．６ |
| ⑦叙述の仕方 | ３ | １．６ |
| ⑧聞き方 | １ | ０．５ |
| 合　　計 | １８４ | １００ |

表２より全設問数の約４割が「①内容把握・要約」を求める設問であることがわかる。また，「①内容把握・要約」「②文章の組み立て・筋道」「③文脈の中の語句の意味用法」「④主題要旨の把握」の設問数が全設問数の約９割を占めていることもわかる。

**（３）本研究の分析の観点**

先の（１）小・中学校現行学習指導要領におけるキーワードと（２）先行研究における説明的文章の出題傾向（分析の観点）との重なりなどを考慮し，本研究の分析の観点を仮説的に下記のように考えてみることとする。

表３　　本研究での分析の観点

| 現行学習指導要領のキーワード | 先行研究における説明的文章の出題傾向 | 本研究での分析の観点 |
|---|---|---|
| ア．語句の理解 | ①内容把握・要約 | ①各段落の内容把握 |
| イ．内容の理解のための要旨・要約 | ②文章の組み立て・筋道 | ②論理展開・文章構成 |

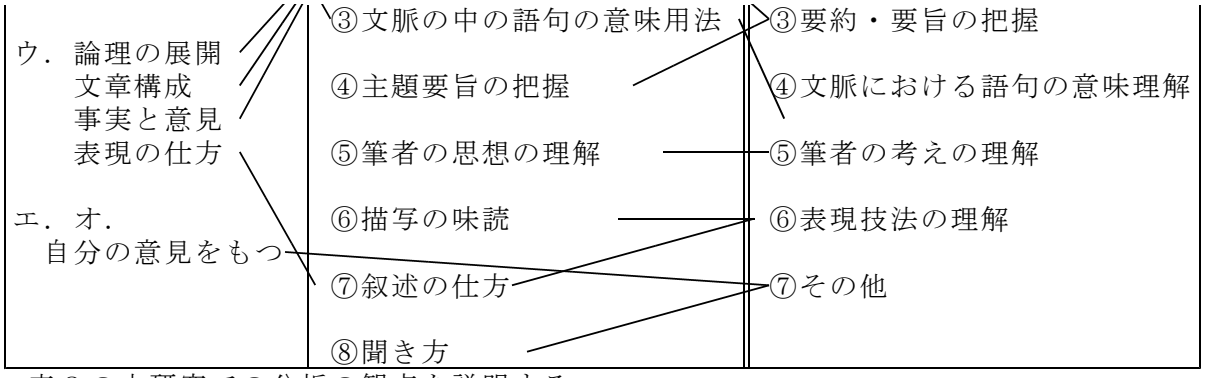


表３の本研究での分析の観点を説明する。

①内容把握とは各段落における内容理解のことである。

②論理展開・文章構成とは段落同士，または文章全体のつながりである。指示語・接続語の適切な使い方も含まれる。

③要約・要旨の把握は文章全体に何が書かれているのか，または一番何を言いたかったのかをみる観点である。

④文脈における語句の意味理解とは，辞書的な意味ではなく，文章中における語句の適切な意味理解である。

⑤筆者の考えの理解とは，文章における筆者の考え方の把握である。

⑥表現技法の理解と比喩・強調・倒置などの技法，及びオノマトペといった技法の理解である。

⑦上記の①から⑥までに入らないものとして⑧その他の項目を設定した。学習指導要領エ．オのキーワードである「自分の意見をもつ」も含めた。

## ４．青森県高校入試問題分析の結果

### ４－１　入試問題を概観する

『青森県　公立高校入試問題』(3) を見ると，過去５年間の青森県高校入試問題の説明的文章の問題形式は下記の通りになっている。

表４　　青森県公立高校入試問題　説明的文章の問題形式

| 年度 | 問題文（筆者名）（出典注1） | 問題総数 | 出題形式(4) 選択式 | 短答式 | 記述式 | 問題文の総字数 | 問題文の総文数 | 一文平均文字数（注3） | 形式段落数 | 文章構成や表現上の特色など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２２ 前期 | 和の思想（長谷川櫂）（中公新書） | 7 | 3 | 2 | 2 | 1749 | 38 | 46 | 11 | |
| ２２ 後期 | 深海魚は海を知らない（三好由紀彦）（祥伝社新書） | 9 | 6 | 2 | 1 | 1926 | 27 | 71 | 11 | |
| ２１ | 未来形の読書術（石原千秋）（ちくまプリマー新書） | 6 | 3 | 0 | 3 | 1728 | 65 | 27 | 9 | |
| ２０ | 王朝びとの四季（西村　亨）（講談社学術文庫） | 6 | 3 | 2 | 1 | 1633（注2） | 22 | 64 | 6 | 「宇治拾遺物語」も含めて問題となる。 |
| １９ | 『ゆっくり』でいいんだよ（辻　信一）（ちくまプリマー新書） | 7 | 3 | 2 | 2 | 1612 | 39 | 41 | 7 | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １８ | サラダ野菜の植物史<br>（大場秀章）<br>（新潮選書） | 7 | 4 | 1 | 2 | 1850 | 43 | 43 | 8 | |

（注１　問題文の出典に関しては『青森県　公立高校入試問題』には示されていない。稿者が教材名・筆者名をもとにして調べた。）
（注２　「王朝びとの四季」の後に示された「宇治拾遺物語」の問題文数は 235 字である。表に示した問題文の総字数には含めている。）
（注３　一文平均文字数は四捨五入での値で示した。これ以降の表にある一文平均文字数も同様である。）

青森県高校入試問題の説明的文章の問題形式は表４の通りであるが，小学校に勤務する稿者にとって入試問題文の難易度を見極めることが難しい。そこで問題文の難易度を考える手だてとして現行教科書の説明的文章教材を調べてみた。下記の通りである。

表５　現行中学校国語教科書説明的文章の教材名一覧（光村図書の場合）

| 学年 | 教 材 名 | 筆者 | 単元名 | 出　典 |
|---|---|---|---|---|
| 3 | メディア社会を生きる | 水越　伸 | 社会をとらえる | 書き下ろし |
| 3 | 生き物として生きる | 中村桂子 | 論理の展開 | 書き下ろし |
| 2 | 文化を伝えるチンパンジー | 松沢哲郎 | 真実を探る | 書き下ろし |
| 2 | モアイは語る－地球の未来－ | 安田喜憲 | 事実と意見 | 書き下ろし |
| 1 | ちょっと立ち止まって | 桑原茂夫 | 視野を広げる | 書き下ろし |
| 1 | クジラたちの声 | 中島将行 | 視野を広げる | 書き下ろし |
| 1 | 未来をひらく微生物 | 大島泰郎 | 真実を語る | 書き下ろし |

表４及び表５より次のことがいえる。

入試問題は新書など現在出版されている書物の中から出題されているが，中学校国語教科書の教材文は全て書き下ろしであった。このことは国語教科書の教材文は子どもの発達を十分考慮したものと考えることができる。一方，入試問題文は我々大人が手にしてもよい新書などから出題されていた。このことから，入試問題文は受検者である中学校３年生の発達をもちろん考慮しているものの，教科書の本文よりはレベルが高いと考えてよいといえる。また問題内容も教科書の題材と比べて，あまり馴染みのないものが多い。

問題総数は概ね６～７問であった。２２年度後期問題は９問であるが，他の年度の問題には全て出題されている「150 字から 200 字以内で書く問題」がないことなど時間的なことも加味され多くなったと思われる。

出題形式は２１年度を除いて選択式，短答式，記述式の全てがあった。

問題文の字数は２２年度後期問題を除いて 1600 ～ 1800 字程度である。ただし，一文の字数はまちまちである。筆者の違いによる。

表現上の特色として，２０年度には古典「宇治拾遺物語」も含めて一つの問題として示されている。他の年度は純粋に説明的文章のみでの出題となっている。

### ４－２　分析の観点をもとにした年度別の問題の具体的内容

次に各年度別に先の分析の観点をもとに，何が問われているか調査した。結果は下記の表６の通りである。

表６　青森県公立高校入試問題の説明的文章問題における具体的内容

| 年度<br>分析の観点 | 22 前期 | 22 後期 | ２１ | ２０ | １９ | １８ | 総数 | % |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①各段落の内容把握 | （1）イ | （3）<br>（6）<br>（7）cd | （2）<br>（3）ア | （2）<br>（4）<br>（5） | （1）<br>（3）<br>（4）<br>（6） | （ 2）<br>（4）<br>（6） | 17 | 40 |
| ②論理展開・文章構成 | （1）ア<br>文章構成 | （2）<br>接続語 | （3）イ | （1）<br>指示語 | （2）<br>接続語 | （3）<br>接続語<br>（5） | 7 | 17 |
| ③要約・要旨の把握 | （ 4）<br>（ 5）<br>要旨 | （5） | （4） | （6） | （7） | （7）<br>要旨 | 7 | 17 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ④文脈における語句の意味理解 | （3）A　B | （1）接頭語 | （1）反対語 | （3）同義語 | （5）同義語 | （1）言い換え | 7 | 17 |
| ⑤筆者の考えの理解 | （2） | （8） | （5） | | | | 3 | 7 |
| ⑥表現技法の理解 | | | | | | | 0 | 0 |
| ⑦その他 | | （4）品詞 | | | | | 1 | 2 |
| 合　　計 | 7問 | 9問 | 6問 | 6問 | 7問 | 7問 | 42 | |

（注　（1）や（3）ｱなどはその年度における問題番号を示している。例えば 22 年度前期試験の「①各段落の内容把握」における（1）ｲとは，（1）ｲの問題である。）

表６より各分析の観点をもとにすると次のことがいえる。

①各段落の内容把握は全ての年度で出題されている。また５年間において高い出題率（40％）であることである。このことは，まず各段落の内容をしっかり理解させることが求められていることがわかる。

②論理展開・文章構成も全ての年度で出題されている。特に接続語や指示語をもとにして考えさせる問題が多い。このことは，適切な接続語や指示語を考えさせることは，論理展開の理解にとって重要な手がかりとなるともいえる。

③要約・要旨の把握の問題も全ての年度の試験に出題されている。説明的文章問題における重要な学習事項であることがわかる。

④文脈における語句の意味理解の出題も多い。この項目は①各段落の内容把握とも関わることだが，文章を適切に読むことを求めていることがわかる。

⑤筆者の考えの理解はここ２年間出題されている。これは近年言われている PISA 型読解力の低下にも関係がありそうである。

⑥表現技法の理解を求める問いはなかった。

⑦その他として品詞を尋ねる出題が１問あった。

以上のことから，入試での説明的文章問題は，①各段落の内容把握，②論理展開・文章構成，③要約・要旨の把握，④文脈における語句の意味理解が多く出題されていることがわかる。なお，これらの①～④の学力はこれまでずっとテストなどで求められてきている学力（これまでの学力）ともいえるものである。年月は経っても基礎的基本的な学力として求められてきている。

## ５．小学校各種テスト問題分析の結果

### ５－１　教研式標準学力検査ＣＲＴ－Ⅱの学年別問題内容と考察

まず初めに小学校段階におけるテストとして「教研式標準学力検査ＣＲＴ－Ⅱ」[5] を取り上げる。

#### （１）検査問題を概観する

昨年度実施の教研式標準学力検査ＣＲＴ－Ⅱの各学年における説明的文章の問題形式は，下記の通りになっている。

表７　ＣＲＴ－Ⅱの学年別説明的文章の問題形式

| 学年 | 問題文（筆者名）（出典注1） | 問題総数 | 出題形式 選択式 | 短答式 | 記述式 | 問題文の総字数 | 総文数 | 一文平均文字数 | 形式段落数 | 文章構成や表現上の特色など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | トマトのひみつ（山口　進） | 4 | 4 | 0 | 0 | 340 | 13 | 26 | 2 | 話題提示－答え－説明（逆接），分かち書き，物語的的文体 |
| 2 | ※教材名・筆者名なし（内容は虫の色や形のひみ | 5 | 5 | 0 | 0 | 346 | 11 | 31 | 4 | 話題提示－説明 分かち書き |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | つに関わるものである） | | | | | | | | | |
| 3 | じょうずになろう<br>およぐこと（武藤芳照） | 5 | 5 | 0 | 0 | 467 | 9 | 52 | 8 | 序論－本論 |
| 4 | みんながしらないカメの話　（杉浦宏） | 5 | 5 | 0 | 0 | 536 | 12 | 45 | 3 | 話題提示１－説明１－話題提示２－説明２ |
| 5 | 一本の温度計<br>（菅原十一） | 6 | 6 | 0 | 0 | 576 | 11 | 52 | 6 | 序論－本論－結論 |
| 6 | あったか動物記<br>（中川志郎） | 6 | 6 | 0 | 0 | 659 | 11 | 60 | 6 | 序論－本論（説明１－説明２） |

表７より次のことがいえる。

教材の内容は植物や動物，生活のことなど子どもにとって身近な話題を取り上げており，各学年とも子どもの発達に即したわかりやすい内容である。

問題総数は４～６問とほぼ同数である。

出題形式は採点の関係もあるのか，全て選択式である。

一文の字数は低学年が 30 字程度，４年生は 45 字とわずかながら少ないが，中学年からは 50 ～ 60 字程度である。

文章構成は５年生では結論まで示しているものの，他学年では話題提示・序論－説明・本論といった構成になっている。テスト問題であることがゆえの示し方であるといえる。

表現上の特色として，１年生では物語的な文体になっている。１年生の発達段階であるお話を読むように説明文を読むという発達に即したものであるといえる。また，２年生の問題が分かち書きになっている。現行２年生の教科書（下）で分かち書きを採用しているのは１社のみであることを考えると，これも子どもの発達に十分配慮していると言える。

### （２）教研式標準学力検査ＣＲＴ－Ⅱの学年別の問題の具体的内容

先の分析の観点をもとに，どんな問題が示されているか整理分析した。結果は表８の通りである。

表８　　分析の観点からみたＣＲＴテストの問題内容

| 学年<br>分析の観点 | １年 | ２年 | ３年 | ４年 | ５年 | ６年 | 総数 | % |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①各段落の内容把握 | １，２<br>理由 | １，２<br>３ | １，２ | １，２<br>４ | ３，４ | １，２ | 14 | 45 |
| ②論理展開・文章構成 | | ４<br>接続語 | ３段落<br>相互 | ３指示語<br>５文章構成 | １指示語<br>２答えの段落 | ４文章構成 | 7 | 23 |
| ③要約・要旨の把握 | | ５題名づけ | ５伝えたいこと | | | ５要旨 | 3 | 10 |
| ④文脈における語句の意味理解 | ３言い換え | | | | （３ ※反対語） | ３（1）（2）慣用句 | 3 | 10 |
| ⑤筆者の考えの理解 | | | | | ５筆者 | | 1 | 3 |
| ⑥表現技法の理解 | ４<br>擬人法 | | | | | | 1 | 3 |
| ⑦その他 | | | ４助詞 | | ６調べ方 | | 2 | 6 |
| 合　計 | ４問 | ５問 | ５問 | ５問 | ６問 | ６問 | 31 | |

（注　※の箇所は「1 各段落の内容把握」と重複しているが，二次的として捉え（）として示した。総数には含めていない。）

表８より下記の三点に集約できる。

一点目は①各段落の内容把握は全ての学年に，②論理展開・文章構成は１年生を除いた学年の問題にあることである。全体の 68 %を占めていることから最重要視されていることがわかる。小学校だからこそ文章を正確に読み取ること，論理展開や文章構成を理解させていくことの必要性が感じ取れる。

二点目は②論理展開・文章構成では２・４・５年に見られるように指示語，接続語を手

がかりとして考えさせていることである。
　三点目は③要約・要旨の把握では６年生では要旨を，２年生では題名づけの問題がある。これらからは，文章全体として何が書かれているかを学年関係なく認識させていくことが必要であることがわかる。

**（３）小学校ＣＲＴテストと高校入試問題との関わり**
　表４・６と表７・８を比べてみると，選抜テストと到達度テストというテストそのものの目的の違い，子どもの発達段階の違いなどからくる問題文等の質の違いはあるものの，同じような傾向が見て取れた。どちらも①各段落の内容把握，②論理展開・文章構成，③要約・要旨の把握，④文脈における語句の意味理解を問う問題が多いことである。小学校１年生から子どもの発達に即した指導の仕方で取り組む必要性があることがわかった。また，４－２でも示したが，これらの①～④はこれまでずっと求められてきた学力（これまでの学力観ともいうべきもの）であり，この学力についてはいつの時代にも求められてきた基礎的基本的な学力であることがわかる。また，特筆する出題として要約・要旨の把握の方法として，小学校２年生の題名づけの問題があった。この出題のように要約・要旨の把握の出題の工夫をしていくことも必要である。

**５－２　青森県学習状況調査問題の整理分析**
　次に小学校段階におけるテストとして青森県学習状況調査問題[(6)]を取り上げる。調査問題は「学習指導要領に基づき，教科の目標及び内容のうち，基礎的・基本的内容について出題」[(7)]と示されているように基礎・基本を重視している。また，調査対象学年は小学校５年生と中学校２年生であるが，本分析の問題は小学校５年生用である。
**（１）調査問題を概観する**
　青森県学習状況調査問題(小学校５年生対象)における説明的文章の問題形式は，下記の通りになっている。

表９　青森県学習状況調査問題における説明的文章の問題形式

| 年度 | 問題文（筆者名） | 問題総数 | 出題形式 | | | 問題文の総字数 | 総文数 | 一文平均文字数 | 形式段落数 | その他（出典など注1） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 選択式 | 短答式 | 記述式 | | | | | |
| 22 | 動物の色ともよう（日高敏隆） | 4 | 2 | 1 | 1 | 1720 | 28 | 61 | 10 | 平成 13 年度４年上国語教科書掲載（学校図書） |
| 21 | 体を守る仕組み（中村桂子） | 4 | 2 | 1 | 1 | 980 | 33 | 30 | 12 | 平成 16 年度４年上国語教科書掲載（光村図書） |
| 20 | 自転車の活やく（高原祥八） | 5 | 1 | 3 | 1 | 714 | 51 | 14 | 14 | 平成 16 年度３年下国語教科書掲載（大阪書籍） |
| 19 | 何を覚えているか（金城辰夫） | 4 | 1 | 2 | 1 | 763 | 16 | 48 | 6 | 平成 16 年度４年　国語教科書掲載（大阪書籍） |
| 18 | カレーの旅（森枝卓士） | 5 | 2 | 2 | 1 | 983 | 26 | 38 | 10 | 平成 16 年度４年下国語教科書掲載（大阪書籍） |

（注１　問題文の出典に関しては「学習状況調査実施報告書」には示されていない。稿者が教材名・筆者名をもとにして調べた。）

　表９より下記のことがいえる。
　問題文は動物や身近な生活についての話題が多い。また出典からみてわかるように，３・４年の教科書に掲載されている説明的文章を使っている。５年生対象のテストに３・４年の教科書教材文を問題文として示しているのであることから，子どもたちにとってそれほど難しい問題文であるという意識はないものと思われる。
　問題総数は４～５問とほぼ同数である。
　出題形式は，選択式，短答式，記述式全てある。

### （２）青森県学習状況調査問題の学年別具体的内容

次に，青森県学習状況調査での説明的文章問題ではどんなことが問われているか整理分析した。結果は表 10 の通りである。

表１０ 青森県学習状況調査問題の説明的文章問題における問題内容

| 年度<br>分析の観点 | ２２年 | ２１年 | ２０年 | １９年 | １８年 | 総数 | % |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①各段落の内容把握 | | | 3 理由 | 2 指示語 | 2 指示語<br>3 言い換え | 4 | 18 |
| ②論理展開・文章構成 | 1 段落相互の関係<br>3 問題文の位置 | 2 指示語<br>3 問題文の位置<br>4 段落相互 | 2 指示語<br>4 文章構成 | 3 要約<br>4 文章構成 | 4 段落相互の関係<br>5 文章構成 | 11 | 50 |
| ③要約・要旨の把握 | 2 要約 | 1 要約 | 5 要約 | | | 3 | 14 |
| ④文脈における語句の意味理解 | | | | | | 0 | 0 |
| ⑤筆者の考えの理解 | 4 筆者の考え | | | | | 1 | 4 |
| ⑥表現技法の理解 | | | 1 疑問文 | 1 疑問文 | 1 疑問文 | 3 | 14 |
| ⑦その他 | | | | | | 0 | 0 |
| 合　計 | ４問 | ４問 | ５問 | ４問 | ５問 | 22 | |

表 10 よりわかることは下記の三点に集約できる。

一点目は②論理展開・文章構成を問う問題が過去５年間２２問中１１問と半数を占めていることである。このことは，５年生の子どもたちに段落相互の関係や文章構成を理解させることが重要であることを示している。特に論理に繋がる「段落相互の関係」を問う問題が多かった。ちなみに段落相互の関係は３・４年生で重点的に学習する内容である。

二点目は一点目と関わることだが，意外なことに①各段落の内容把握の問題が少ないことである。問題の比重が②論理展開・文章構成におかれたことによるものと思われる。

三点目は③要約・要旨の把握と⑥表現技法の理解が３問ずつ見られたことである。何が書いてあるかをまとめる力，そして疑問文を本文から見つける力など，説明的文章指導における私たちの指導しなければならない重点事項が青森県学習状況調査からわかる。

### （３）青森県学習状況調査問題と高校入試問題との関わり

高校入試問題は①各段落の内容把握，②論理展開・文章構成，③要約・要旨の把握，④文脈における語句の意味理解を問う問題が多かった。一方，青森県学習状況調査問題では②論理展開・文章構成が多い。このことは，特に小学校５年生段階において①～④の中で特に②の論理（段落相互）や文章構成をしっかり身につけさせる必要があることを示している。つまり先のＣＲＴテスト同様に文章を正確に詳しく読み取る力を重視している。いわゆるこれまでの学力に関わる内容の定着の大切さを示しているともいえる。

## ５－３　全国学力・学習状況調査問題の整理分析

続いて全国学力・学習状況調査問題の説明的文章問題 (8) を検討する。学力調査に関しては国語と算数・数学の二教科のみ（主として「知識」に関してのＡ問題と，主として活用に関してのＢ問題がある）の調査であり，これまで４回実施された。調査対象は小学校６年生と中学校３年生である。本分析の対象は小学校６年生用の調査問題である。

### （１）調査問題を概観する

全国学力・学習状況調査問題（小学校６年生対象）における説明的文章に関わる問題形式は下記の通りになっている。

表１１　全国学力・学習状況調査問題における説明的文章の問題形式

| 年度 | 問題の | 問題文（筆者名）の特徴 | 問題総 | 出題形式 | | | 問題文 | 総文数 | 一文平 | 形式段 | 出題の趣旨 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | 種類 | | 数 | 選択式 | 短答式 | 記述式 | の総字数 | | 均文字数 | 落数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 22 | A | 「農産物祭り」について書かれた文章（筆者名なし） | 1 | 1 | 0 | 0 | 200 | 8 | 25 | 2 | 説明的な文章の内容を的確に押さえながら読むことができるかどうかをみる。 |
| | B | 【資料】インターネットを使って集めた目覚まし時計の情報がＡ，Ｂ，Ｃの３種類示されている | 1 | 0 | 0 | 1 | | | | | 目的や意図に応じて，必要な情報を関連づけて読み，理由を明確にして説明することができるかどうかをみる。 |
| 21 | A | 【図鑑の一部】(『びっくりふしぎ　写真で科学④植物の素顔』) と【メモ】 | 1 | 0 | 0 | 1 | | | | | 段落の内容を的確にとらえることができるかどうかをみる。 |
| | B | マナーに関する「はじめに」と「おわりに」(『これだけはしっておこう！マナー・エチケットの基本 60』辰巳渚) | 3 | 1 | 0 | 2 | | | | | ①筆者の表現の工夫に着目して読むことができるかどうかをみる。<br>②目的や意図に応じて，自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。 |
| 20 | A | 『ぼくのマンガ人生』（手塚治虫） | 2 | 1 | 1 | 0 | 331 | 8 | 41 | 2 | 目的や意図に応じて，段落の内容をとらえることができるかどうかをみる。 |
| | B | 「図書館だより」をもとにした読み | 2 | 0 | 1 | 1 | | | | | 資料から必要な情報を取り出して，自分の考えを明確にしながら読んだり書いたりすることができる。 |
| 19 | A | 「日本のケナガマンモス」（高橋啓一） | 1 | 1 | 0 | 0 | 184 | 3 | 61 | 1 | 説明文の段落の内容をとらえることができるかどうかをみる。 |
| | B | 紙についての資料１・資料２ | 4 | 0 | 1 | 3 | 1221（注） | 24 | 51 | 8 | 身近な問題について考えるために，複数の資料を調べて新聞記事に書くことができるかどうかをみる。 |

（注　資料１の総字数を示した。資料２はグラフである。）

表 11 より下記のことが言える。

これまで見てきた青森県高校入試問題や各種テスト問題同様に明確に説明的文章が問題文として示されているのは平成 22 年度Ａ問題，20 年度Ａ問題，19 年度Ａ・Ｂ問題であった。他は資料や図鑑などの文章が問題文として示された。

出題の趣旨なども参考にすると，Ａ問題は従来の読み取りに関わる基本的な問題であることがわかる。一方，Ｂ問題は資料などを読み取った後に「自分の考えをまとめて書く」ことが求められていることがわかる。

### （２）全国学力・学習状況調査問題の具体的内容

次に，全国学力・学習状況調査問題での説明的文章問題ではどんなことが問われているか整理分析した。結果は表 12 の通りである。

表１２　全国学力・学習状況調査問題の説明的文章問題における問題内容

| 実施年度 | ２２ | | ２１ | | ２０ | | １９ | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 問題の種類 / 分析の観点 | A | B | A | B | A | B | A | B |
| ①各段落の内容把握 | 1 適切な言葉 | | 1 抜き出し | | 1 言い換え | | | 2 理由 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ②論理展開・文章構成 | | | | | | | | |
| ③要約・要旨の把握 | | | | | | | 1 要約 | |
| ④文脈における語句の意味理解 | | | | | | | | |
| ⑤筆者の考えの理解 | | | | | 2 筆者 | | | |
| ⑥表現技法の理解 | | | | 1 表現の工夫 | | | | |
| ⑦その他 | | 1 | | 2(1)<br>2(2) | | 1<br>2 | | 1<br>3(1)<br>3(2) |

表 12 よりＡ問題は，①各段落の内容把握，③要約・要旨の把握，⑤筆者の考えの理解が出題されていることがわかった。CRT テスト，青森県学習状況調査と同様な基本的な学力を求めていることがわかる。一方，Ｂ問題になると⑦その他が多く，上記の表では考察が不可能になってしまった。そこで，⑦その他に関わる内容を具体的に示したものが表 13 である。

表１３　Ｂ問題の具体的問題内容

| ２２年度 | ２１年度 | ２０年度 | １９年度 |
|---|---|---|---|
| １．条件に合う資料を探し，答えを考え，<u>決められた字数で書く</u> | ２(1)二つの文章を読み，答えとして適切な内容を考えて書く。<br>２(2)文章を要約し，<u>決められた字数で問題文の書き方に合わせて書く。</u> | １．問題に合う資料を探し，<u>条件に合うように書く</u><br>２．例示の書き方をもとにしながら，グラフの中から必要なことがらを取りだして<u>まとめて書く</u> | １．グラフを読み条件に合う答え方で書く<br>３(1)例示の書き方をもとにしながら，資料の中から<u>必要なことがらを取り出して書く</u><br>３(2)資料をもとに<u>自分の考えをまとめて書く</u> |

（注　傍線は引用者）

表 13 の傍線部より，「決められた字数で書く」「条件に合うように書く」「自分の考えをまとめて書く」といった出題であることがわかる。このことは，資料の中から必要なことがらを取り出し，自分の考えをまとめ，さらに決められた答え方の中で自分の答え書くという，双方向的なやりとりの中で複眼的な見方が求められているともいえる。これは，従来の問題の特徴である本文から答えの言葉や文を探して見つけて書くといったこれまでの学力に関わる内容ではない。「自分の考えをまとめて書く」といった思考力・判断力・表現力を伴う学力であり，PISA 型読解力に関わる新しい学力，これからの学力ともいえる。つまりＢ問題は新しい学力，またはこれからの学力を求めているといえる。

### （３）全国学力・学習状況調査問題と高校入試問題との関わり

全国学力・学習状況調査のＡ問題は，①各段落の内容把握，③要約・要旨の把握，⑤筆者の考えの理解を求める問題が見られた。青森県高校入試問題でも同様に①③⑤は問われていることから，この三つの観点は説明的文章指導の基礎的学習事項といってよいと考えられる。小学校段階では特に必要な基本的な学力であることが再認識させられる。

一方，「自分の考えをまとめて書く」といったＢ問題と青森県高等学校入試問題の中の説明的文章問題とは問題の質の差が見られる。入試問題の説明的文章問題は文章を正確に読み取る力を求めているからである。ただし，高校入試問題には，説明的文章問題ではないが，一番最後の問題として「自分の意見」を決められた字数内で書く作文問題が（ただし，平成 22 年後期入試には見られない）ある。Ｂ問題とこの「自分の意見」を書く高校入試問題は似ている。また，このことに関して平成 22 年 12 月 30 日の読売新聞に，〈「Ｑ．自分の考え書きなさい」「応用力」問う高校入試〉という見出しの高校入試についての記事が掲載された。その記事によると，調査したベネッセ教育研究開発センターの鎌田氏は「全体から見るとまだ少ないが，数年前よりは増えている。文章から抜き出すのではなく，自分の言葉で書かせるのが特徴で，入試が変われば授業も変わる。今後はもっと，思考力や表現力を育てるような授業が広がっていくのではないか」と述べ，今年度の青森県の出題内容も例として示されていた。いわゆる PISA 型読解力に繋がる新しい学力であり，新

学習指導要領が示している思考力・判断力・表現力を高める新しい学力とも重なる。

そこで，高校入試問題の中の説明的文章問題だけでなく「自分の考えをまとめて書く」といった作文問題について青森県高校入試問題を再度吟味する必要性がある。調べた結果は下記表 14 の通りである。

表１４　青森県高校入試問題にみる「自分の考えをまとめて書く」問題

| | ２２年度前期 | ２１年度 | ２０年度 | １９年度 | １８年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 資料内容 | チンパンジーが仲間の要求に応じて手助けする資料 | 日本とアメリカの高校生を対象とした家事の手伝いをすることについて，保護者がルールを決めているかの割合の資料 | 短歌の性質と実際の生徒作品「ケンカして今日は一人で帰る道さみしく影と話す夕暮れ」より | 詩の特質より（柴田翔「詩への道しるべ」より） | おもしろい（本）とは何かについて（犬飼道子「本　起源と役割を探る」より） |
| 設問内容 | 「注目したこと」と「自分の意見」を二段落構成，150 字以上 200 字以内で書く | 「自分の意見」と「理由」を二段落構成，150 字以上 200 字以内で書く | 「場景」と「自分の意見」を二段落構成，150 字以上 200 字以内で書く | 「考えたこと」と「理由」を二段落構成，150 字以上 200 字以内で書く | 「自分の意見」と「おもしろい本について」を二段落構成，150 字以上 200 字以内で書く |

上記表 14 の設問内容から，「自分の意見」と「理由など」を二段落構成，150 字以上 200 字以内で書くことが求めていることがわかる。これは先の全国学力・学習状況調査Ｂ問題に似ている。このような「自分の考えをまとめて書く」問題を青森県では既に数年前から高校入試問題で求めていることがわかった。

つまり，青森県高校入試問題では説明的文章問題から従来からずっと求められてきた本文を正確に正しく読むというようなこれまでの学力を求めるとともに，一方で作文問題において表 14 の問題のような PISA 型読解力に関わる新しい学力，またはこれからの学力ともいえる学力を求めているのである。

このように青森県高校入試ではこれまでのこれからの双方の学力を求めている。つまり先の二つの学力を包含した「確かな学力」を求めているともいえる。このことは，授業においても「確かな学力」を身につけさせるように指導していくことが喫緊の課題となっていることがわかる。

## ５－４　三本木高等学校附属中学校入試問題の整理分析

最後に三本木高等学校附属中学校入試問題の説明的文章問題 (9) を検討する。この附属中学校は中高一貫校なので，この中学受験に合格すれば高等学校入学試験がないこと，また上北郡の上位校である三本木高校の附属中であることから大学受験まで見据えていることなどを理由に，市内小学校を中心に周辺町村の成績上位の子どもたちが多く受験する進学校である。従って，合否がある選抜テストが行われる。また，これまで調査・考察してきた小学校段階のテストは，学習の到達度や定着度を図るテストであったが，このテストは選抜を目的とすることからこれまでの調査問題の質的レベルが異なることが当然予想される。なお，附属中は今年度創立４年目の学校である。従って今年度を含めた４回のテスト問題を分析対象とする。

### （１）調査問題を概観する

三本木高等学校附属中学校入試では国語や算数といった教科ごとのテストではなく,「適性検査Ⅰ」（45 分）「適性検査Ⅱ」（45 分）の二つの検査が行われる。「適性検査Ⅰ」は教科に当てはまると主に国語・社会に，「適性検査Ⅱ」は算数・理科に関わる問題が多い。そこで本稿では「適性検査Ⅰ」をもとにし，その中での説明的文章に関わる問題を調べてみた。

表１５　三本木高等学校附属中学校入試問題における説明的文章の問題形式

| 年度 | 問題文（筆者名） | 問題総数 | 出題形式 | | | 問題文の総字数 | 問題文の総文数 | 一文平均文字数 | 形式段落数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 選択式 | 短答式 | 記述式 | | | | |
| 23 | （非公開　注） | | | | | | | | |
| 22 | 「なぜ人は本を読むのか」（河合隼雄） | 1 | 0 | 0 | 1 | 629 | 18 | 35 | 3 |
| 21 | （文学的文章「音」杉みき子からの出題であった） | | | | | | | | |
| 20 | 「『あり方・生き方』を考える 50 のいい話」（山岸博志・関根正明） | 1 | 0 | 0 | 1 | 779 | 16 | 49 | 5 |

（注　青森県教育委員会は今年度実施した 23 年度問題の本稿に関わる問題を非公開にしているので表 15 には示せない。）

表 15 より 22 年度，20 年度に説明的文章が 1 問出題されていること，そしていずれも記述式の問題であることがわかる。

### （２）三本木高等学校附属中学校入試問題の具体的内容

22 年度及び 20 年度とも 1 問のみであるので，具体的な問題内容を下記に示すことにする。

表１６　三本木高等学校附属中学校入試問題の具体的内容

| ２２年度の問題内容 | ２０年度の問題内容 |
|---|---|
| 「筆者は，「なぜ人は本を読むのか」について，いくつかの理由をあげています。筆者があげている「本を読む理由」の一つについてふれ，読書についてのあなたの考えを，あなた自身の体験もまじえて次の原こう用紙に書きましょう。二百四十字以上，三百字以内で書きましょう。必要に応じて，段落分けをして書きましょう。」 | 「上の文章を読んで考えたことを，体験や身近なできごとを例にあげて，次のページの原こう用紙に書きましょう。必要に応じて，段落に分けて書きましょう。」 |

（注　傍線は引用者）

上記表 16 の傍線部より三本木高等学校附属中学校では，資料から考えたことを自分の経験なども示しながら段落に分けて書くことを求めていることがわかる。また，この「自分の考えをまとめて書く」といった事柄は，全国学力・学習状況調査同様に分析の観点では⑦その他の項目に分類できる。しかし，⑦その他には文法的な事柄も含まれているので，文法的な言語事項に関わることと「自分の考えをまとめて書く」ことを一つの分析の観点に入れることには無理がある。明確に区別することが必要となる。

### （３）三本木高等学校附属中学校入試問題と高校入試問題との関わり

三本木高等学校附属中学校入試問題と青森県高校入試問題はともに選抜テストである。つまり，子どもたちを合否判定するため，振り分けることを目的としたテストである。しかし，青森県高校入試問題の説明的文章問題と三本木高等学校附属中学校入試問題との関連性は低い。なぜなら青森県高校入試問題の説明的文章問題はこれまでの学力観に基づいた本文を正確に読み取るなどといった学力を求めている。一方，三本木高等学校附属中学校入試問題は本文を正確に読み取る力を踏まえ，思考力・判断力・表現力を駆使して「自分の考えをまとめて書く」力を求めているからである。

ところで，この「自分の考えをまとめて書く」問題は，高校入試問題の最後に示された「自分の考えをまとめて書く」作文問題として出題されている。つまり，高校入試問題の作文問題と三本木高等学校附属中学校入試問題とは類似している。全国学力・学習状況調査Ｂ問題にも「自分の考えをまとめて書く」問題があることから，仮説的に考えた分析の観点の項目の見直しを図り，「自分の考えをまとめて書く」ことを一つの要素として追加する必要性がある。

## ６．まとめと今後の課題

### （１）分析の観点の修正

全国学力・学習状況調査問題，三本木高等学校附属中学校入試問題，高校入試作文問題からは「自分の考えをまとめて書く」学力を求めている。そこで，⑥その他の項目の中に入れるのではなく，新たに項目立てる必要がある。

そこで稿者が仮説的に示した分析の観点の修正を行う必要がある。

表１７　再考した分析の観点

| |
|---|
| ①各段落の内容把握 |
| ②論理展開・文章構成 |
| ③要約・要旨の把握 |
| ④文脈における語句の意味理解 |
| ⑤筆者の考えの理解 |
| ⑥表現技法の理解 |
| ⑦文法・言語事項 |
| ⑧自分の考えをまとめて書く |

修正箇所は表 17 の⑦⑧である。⑦は文法などを中心に言語事項に関わる事柄として「文法・言語事項」とした。また，先の全国学力・学習状況調査，三本木高等学校附属中学校入試問題，高校入試問題作文問題において思考力・判断力・表現力など PISA 型読解力に関わる新しい学力が求められている。そこで，新たに⑧に「自分の考えをまとめて書く」という項目を設定した。

### （２）まとめと今後の課題

高校入試問題と小学校段階での各種テストを比較することにより，小学校段階では説明的文章指導においてどんな国語学力を身につけさせることが必要であるかを考察してきてた。

その結果，①各段落の内容把握，②論理展開・文章構成，③要約・要旨の把握，④文脈における語句の意味理解は高校入試問題やＣＲＴテスト，全国学力・学習状況調査Ａ問題に多く出題されていた。このことから①～④は，小中ともに説明的文章学習の基礎的基本的な学力であるといえる。また，②論理展開・文章構成は青森県学習状況調査において強調されていることから，５年生までに身につけるべき学力である。

一方，全国学力・学習状況調査Ｂ問題，三本木高等学校附属中学校入試問題，青森県高校入試作文問題をみると，「自分の考えをまとめて書く」といった思考力・判断力・表現力が一体となった PISA 型読解力に通ずる新しい学力も求められてきている。

つまり，①～④といったこれまでの基礎的基本的な学力とともに，「自分の考えをまとめて書く」といった思考力・判断力・表現力が一体となった PISA 型読解力に通ずる新しい学力を調和よく指導していくことが求められる。いわば基礎的基本的な学力と発展的な学力の二つを包含する「確かな学力」を身につけさせることを求めているともいえる。そのためには，基礎的基本的な学力に関わる指導を大切にしつつも，PISA 型読解力に通ずる学力を高めるために，いかに子どもに必然性のある学習内容，学習場面を設定していくかである。いわば学習指導の構造をかえることが必要となってくる。私たち教師の指導の工夫が求められている。

ただし，本稿には問題点もたくさんあることはいうまでもない。選抜テストと到達度テストは比較できるものなのか。また，再考した分析の観点の検証をどう行うのかなどたくさんある。これらについては，機会を設けてさらに考えていきたい。

注（1）『高校入試問題の分析　国語　－その出題傾向に関する基本データ－』全国教育研究所連盟編　第一法規　1981

（2）『中学校学習指導要領新旧比較対照表』教育出版　2008

（3）『青森県　公立高校入試問題』東京学参株式会社　2010

（4）出題形式については「「全国学力・学習状況調査」の目的と課題」「月刊国語教育」三浦登志一　2007　東京法令出版　p12~15 を参考にした。

（5）「教研式標準学力検査　ＣＲＴ－Ⅱ」図書文化

（6）「学習状況調査実施報告書」青森県教育委員会　平成 18~22 年

（7）「学習状況調査実施報告書」青森県教育委員会　平成 18 年　p3

（8）「全国学力・学習状況調査【小学校】報告書」文部科学省　国立教育政策研究所　平成 19~22 年

（9）『青森県公立中学校入学試験問題集　23 年春受験用　①県立三本木高等学校附属中学校』教英出版　2010